

感謝・感動の3泊4日「山・海・島」体験活動

竹原市立忠海東小学校 対象学年（3・4・5年）

体験活動の種類 自然 交流 文化 勤労生産

体験活動場所・宿泊場所 山県郡北広島町・民泊

【学校紹介】

- 本校は、竹原市の最も南東部に位置しており、北に黒滝山から白滝山へ続く連山があり、校庭の南には瀬戸内海が開けている。JR 呉線沿いで福祉施設・公的機関・病院・工場などがあり恵まれた環境である。また、海の自然に恵まれており、干潟には絶滅危惧種とされているハクセンシオマネキが棲息している。



地域の特色を生かし、学校では鯛の放流体験、魚のさばき方体験、地域の食材を生かした料理教室を行っている。また、公民館を中心とした地域行事も活発に開催され、児童は積極的に参加している。さらに、二窓の神明祭は地域をあげての行事として有名で、「忠海東子ども太鼓」を披露するなど地域に誇りを持って生活している。

本校の教育目標は「夢に向かってかがやく子どもの育成」である。研究主題を「自ら学び、表現し、思考を深める児童生徒の育成」とし、算数科における言語活動を通しての研究に取り組んでいる。今年度は、とりわけ自主性やコミュニケーション能力を育てるというねらいのもと、3泊4日の北広島町での民泊体験活動を実施した。

- 校長名：佃 真知子
- 児童数（学級数）：32名（5学級 特別支援学級を含む）
- 所在地：広島県竹原市忠海東町五丁目19番地1号
- 電話番号：0846-26-0204
- URL：<http://www11.ocn.ne.jp/~tadaeast/>

【体験活動のねらい】

- 日常とは異なる環境での生活体験や、体験先での地域の方々との交流を通して、児童の豊かな心を育成する。
- 仲間と民泊体験をすることで、人との出会いの大切さを実感させるとともに、自主性やコミュニケーション能力を育成する。
- さまざまな感動体験をすることで、「人・自然・文化」への感謝の心を育む。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置付け	実施場所	指導者
4月～6月	〈事前学習〉 ・北広島町について調べよう。 ・宿泊体験活動オリエンテーション	2 2	社会科 学級活動	学校 学校	担任 担任
7月	・集団や社会に対する意識の高揚を図るため、道徳の時間において「進んで参加」「役割の自覚」「協力」「責任」について学習する。	2	道徳の時間	学校	担任
7月9日～	〈3泊4日宿泊体験活動〉 ・八幡湿原トレッキング ・雲月山登山体験 ・川魚体験 ・伝統芸能神楽体験	24	学校行事 総合的な学習の時間 理科 社会科 音楽	山県郡 北広島町	トレッキングガイド 民泊家族 田舎体験指導員 学校教職員

12 日	・田舎暮らし体験 ・奉仕活動 ・交流会 ・道徳の時間「尊敬と感謝」2－(5)		学級活動 道徳の時間		
7 月 ～ 9 月	〈事後学習〉 ・体験活動の感想文・礼状を作成する。 ・集団活動の振り返りを行う。 ・発表会の計画・資料作成を行う。 〈体験発表会〉 ・プレゼンテーション発表会を行う。	1 1 2 1	国語 学級活動 総合的な学習の時間 総合的な学習の時間	学校	担任 担任 学校教職員 学校教職員
11 月	・体験活動のまとめ	1	総合的な学習の時間	学校	担任

【体験活動の概要】

○自然体験（八幡湿原トレッキング・雲月山登山体験・川魚体験）

八幡湿原のトレッキングや雲月山登山で、大自然との触れ合いをどの子どもも満喫した。大暮養魚場で、アマゴの特性や養護の方法、育てる上での苦労を聞き、アマゴのつかみどりを楽しんだ。割りばしでアマゴの内臓の取り出し方を学び、火おこしも体験し、アマゴを焼いておいしくいただいた。



○民泊体験（出会い・生活・勤労）



17名の児童が、4か所の民家にわかれて3泊4日の民泊体験をした。忠海を紹介したり、夕食を作ったり、北広島町の「お父さん・お母さん」と楽しい4日間を過ごした。

農作業の手伝いや家畜のお世話など自分たちの地域ではなかなかできない体験ができた。自分たちで収穫した野菜を使っての食事づくりでは、みんなで協力することの大切さや、感謝し食べる喜びを味わうことができた。食材にも目を向け苦手な野菜も食べることができるようになった。

お世話をしてくださる人たちや自分の親に対して、感謝の気持ちを感じることができ、保護者アンケートでは、「その後も家での食事の手伝いができるようになった」と記されている。



体験活動最終日には、お世話になった家庭に感謝の気持ちを伝えるための活動を設定した。相手にとってどんなことをするのが一番喜ばれるかを話し合わせ実施した。お風呂掃除や部屋掃除や肩たたきを感謝の気持ちを込めて一生懸命に活動することができた。



全員が集い感謝の手紙を書き、4日間の振り返りをした。「ありがとうの会」で、歌を歌った時、涙があふれ、感謝の手紙を読んで渡す時、みんな泣いていた。「別れる時には、家族と離れるみたいでとてもさびしくて涙が止まりませんでした。」「この4日間で、自分がものすごく成長できたと思います。」と作文に書いていた。



▲「ありがとうの会で児童が書いたお手紙」

○伝統文化体験（神楽鑑賞）

北広島町の伝統文化である神楽を観賞した。間近で見ることができ迫力があつた。鬼が出てくるところで怖がっている児童の姿も見られた。実際にりっぱな衣装を着させていただき自分たちの地域と異なる伝統文化に触れることができた。このことは、自分たちの地域の伝統文化をより好きになるきっかけとなった。



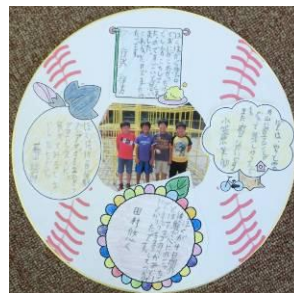
【体験活動の効果を高める事後学習】

○発表会（児童朝会）

活動内容を知らせるのではなく、「感謝」・「感動」が伝わることをめあてに、4日間の体験活動で学んだことを伝えた。見ている人に効果的に伝える方法として、パワーポイントによる発表とした。担当を決め、伝えたい内容の原稿作りを進めていった。原稿を見ることなくしっかり発表ができ、発表後、他学年・教職員の感想をもらうことで、達成感を感じることができた。

○礼状作成（国語科）

民泊先の方への礼状づくりに取り組んだ。このとき、手紙の書き方をあわせて指導した。4日間の生活を思い出しながら、感動したことや感謝の気持ちを相手に伝わるように書くことができた。



【交流先や施設等との連携】

○事前

現地で事前打合せ・下見を行った。受け入れ先の方々とねらいや活動内容・活動場所について確認し、児童の実態に応じた配慮事項について共有した。

○活動中

児童の体調管理について各民泊先と綿密な連携を行った。また体調のすぐれない児童が出た時は、養護教諭とともに出向き迅速に対応した。

○事後

礼状を作成し、民泊した各家庭に写真とともに送付した。

【評価の工夫】

- 毎日、就寝前には振り返りの時間を設け、個々で「自分の仕事はしっかりできた。」「自分の良いところが見つかった。」「相手の立場になって考えた。」「いろいろな意見・考えを受け入れることができた。」「自分の気持ちを言葉で伝えることができた。」という項目について評価させた。体験したことと一日の感想を書かせた。
- 事後の学習では、体験活動の思い出を新聞や作文等で書かせたり、発表や感想を交流し合ったりすることで、自分や友達の活動を振り返った。

7月11日(木)	☼	◯	◯	△	▲	×
自分の仕事はしっかりできた。	☼	◯	◯	△	▲	×
自分の良いところが見つかった。	☼	◯	◯	△	▲	×
相手の立場に立って考えた。	☼	◯	◯	△	▲	×
色々な意見・考えを受け入れることができた。	☼	◯	◯	△	▲	×
自分の気持ちを言葉で伝えることができた。	☼	◯	◯	△	▲	×

< 3日目の感想 >

▲ 児童のしおりより

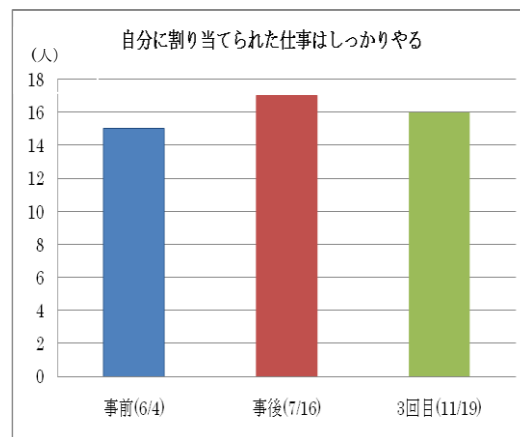
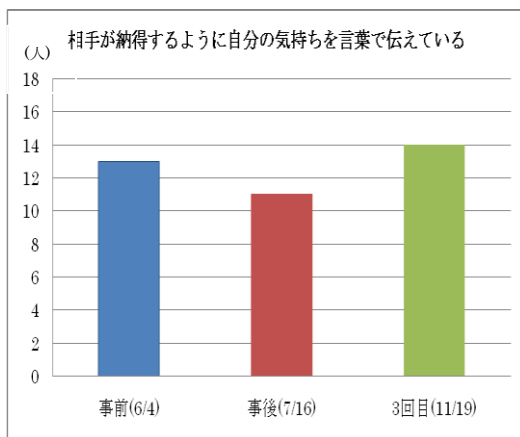
【安全面の配慮事項】

- 現地で担当者と1か月前に下見を行い、危険箇所や危険生物について確認した。また、児童の健康状態や実態に応じた配慮事項についても共有した。
- 毎朝、児童の健康状態を確認し、体験活動前の健康状態の把握に努めた。また緊急時に使用可能な車両を一台配置して素早く対応できるように配慮した。
- 4日間を通して、ゆとりある日程を仕組むことで、時間を気にせず様々な活動に集中して取り組めるようにした。
- 熱中症対策として、塩飴配布・水分補給・民泊家庭へのお茶の準備のお願い等をした。

【体験活動の成果と課題】

< 成果 >

- 児童をお客様として扱わず、家族の一員として時には優しく、時には厳しく接してくれた民泊先の方々との出会いが大きかった。挨拶や丁寧な言葉遣いをするようにがんばることができた。コミュニケーション能力を身に付けた。
- 児童にとって、自分たちで野菜を収穫し、自分たちで料理を作らなければならない環境があったことで、これまで、家庭でいかに仕事をしていなかったかに気付き、家に帰って進んでお手伝いをしようという意識が高まった。
- 児童は、家族のありがたさに改めて気付き、絆を深めることができた。また、保護者は、子どもたちの成長した姿に感動した。
- 児童アンケートの結果から、「相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝えている」「自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる」の項目に対して、肯定的な意識を持つ児童が増えた。



私は北広島町へ行く前はとても心配でした。民泊のお父さん・お母さん達との出会いの会が終わっても、仲良くなれるか心配でした。二日目は雲月山に登りました。急な上り下りがあったとしてもしんどかったけど、みんなと協力して頂上まで登れました。なにより嬉しかったのは、しんどかったけど最後まで登り切れたことです。

お別れの会では、お世話になったお父さん・お母さんに感謝の気持ちを歌でプレゼントしました。私は、北広島町から離れたくありませんでした。「あるペン屋（民泊した宿の名前）」は私のもう一つの家です。過ごした時間は少なかったけど、とても楽しく思い出に残った4日間でした。

僕が一番心に残ったことは羊の世話です。動物園では見たことがあったけど、牧場で見ると羊は初めてでした。羊にワクチンを打つことや毛刈りをするとこを体験しました。お兄ちゃんが逃げる羊を一生懸命捕まえている姿がすごくかっこよくて「僕もあんな風になりたいなあ」と思いました。

▲ 児童の作文より一部抜粋

<保護者の声より>

- ・体験を通して人と人との関わりも勉強でき、人に対する思いやりが強くなった。
- ・色々なことに自分からチャレンジしてみようという行動が見られるようになった。
- ・やらなければならないことは時間がかかってもできるようになってきた。
- ・現在でも、体験活動の様子のDVDを見ては、「この事は一生忘れないよ」と言っていた。どれだけ楽しく、子供の心に残っている活動ができたのかが伝わってきた。
- ・進んで手伝いをするようになったし、気を使うようになった。（雨が降ったら自分で窓を閉めに行く、洗濯ものを出すときに「いつもすみません」と言って脱衣場に置くようになった。
- ・今まで長く離れたことはないし、家では家事の手伝いもしなかったし、服を着替えることも1人ではできなかった。体験活動から帰ってきてからは、食事の手伝いが少しできるようになったし、朝の支度も自分でするようになった。
- ・体験を素直に受け入れ、そこから今後、自分はどうしないといけないか、今までの自分を振り返ることができるようになった。

<課題>

- 体験活動後、すぐに夏季休業に入った。体験活動と事後学習とをしっかりと結び付けることが難しかった。事後学習をスムーズに行い、また計画的に進めていくことでより効果が高められたと感じる。
- 児童アンケートの結果より、事前・事後との比較においては全体的に伸びが見られるが、時間をあけて実施した3回目のアンケート結果では、「自分とちがう意見や考えを受け入れることができる」という項目について減少傾向が見られた。体験活動で得た学びや成果を持続させる工夫が必要である。
- 今年度は県からの補助金と北広島町からの補助金があり、金銭的な負担は軽減された。しかし、補助金がなければ保護者が負担する額は大きなものとなり不安が残る。